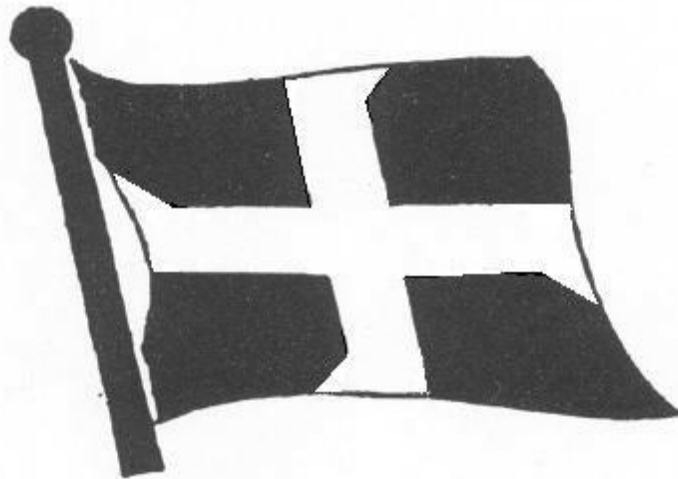


蒼穹 NEWS

NO.6

東大戦総括号

平成 28 年 10 月 8 日発行



～目次～

- 1 主将挨拶、女子主将挨拶、監督挨拶
- 2 東大戦結果
- 3 東大戦詳細
- 4 東大戦 OP 結果
- 5 新主将挨拶
- 6 新幹部紹介

1. 主将挨拶・女子主将挨拶・監督挨拶

主将挨拶

去る10月1日、山城総合グラウンドにて東大戦が行われました。男女ともに総合優勝を目指しながらも、勝利を手にすることはできませんでした。当日は数々の種目でランキングを覆し、七大戦以降の取り組みの成果が垣間見られましたが、最終的には力及ばずという結果でした。特に男子は序盤の流れが良かっただけに、中盤に取りこぼしてしまったのが悔やまれます。

ここまでチームとしての目標を何一つ達成することができず、なんとかこの東大戦こそはと強い決意を持って挑みましたが、勝利をお見せすることができず、大変心苦しく思っております。

この東大戦を持ちまして、浅野(3・投擲)を新主将としたチームに代替わりします。来年こそは強い京大をお見せできると思いますので、ご期待ください。

最後になりましたが、この1年間蒼穹会の方々には大変お世話になり、本当に感謝しております。来年以降の後輩達にも変わらぬご支援、ご声援のほど宜しくお願い致します。

京都大学陸上競技部主将 足立 涼

女子主将挨拶

10月1日に行われました東大戦は女子チームとしては11連覇がかかった試合ではありませんでしたが点数を大きく引き離され惨敗という結果になってしまいました。東京大学の女子は非常に個々のレベルが高いことは事実ではありましたが、我々の準備不足、大切な場面で踏ん張る力がなかったということをごまごまご突き付けられた試合でありました。歴史を断ち切ってしまったこと、後輩に勝ちという土産を置いていけなかったことが本当に悔やまれます。

この東大戦をもちまして、女子主将は岸本(中距離)に変わり3年生を中心としたチームとなります。私たちはチームのレベルの底上げを目指してやってきましたがこれからはそれだけでなく個々のレベルの引き上げを大切にしていってより強いチームへとまとめてくれると確信しております。

最後になりましたが、この一年間女子主将を務めさせていただき、その間には蒼穹会の皆様がたからのご声援に何度も支えていただきました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。今後とも現役部員に変わらぬご支援ご声援のほどよろしくお願い申し上げます。

京都大学陸上競技部女子主将 金澤 和寿美

監督挨拶

男女共に必勝を誓って挑んだ東大戦でしたが、男子は終盤の追い上げも及ばず敗北、女子は実力差を見せ付けられ 11 連覇を逃しました。

男子は序盤、非常に良い流れでした。しかし 800m と 200m のスコルクで流れを持っていかれ、最後まで諦めず追いかけてきましたが一步及びませんでした。点差は 4 点。色々な場面であと一人東大の選手より上にいけていけばという思いがそれぞれの選手にあると思います。東大戦というのはそういう試合なのだ、相手を意識して相手よりも前に前にという気持ちを持って臨む必要がある試合なのだということを現役部員は強く実感することができたはずです。来年にぜひ繋げて欲しいと願っています。

女子は自己新も多く出ていましたが、層の薄さをカバーできず、惨敗しました。男子よりも一層、相手を意識して実力を向上させる必要があります。1~3 年生全員が強い気持ちを持ってこの冬、練習に取りくんでもらいたいと思っています。また来年から新しい歴史を作りましょう。

当日は多くの先輩方に応援に来ていただきありがとうございました。皆様のご期待に応えることができず、我々も非常に悔しい思いをしております。来年以降、再び強い京大陸上部を取り戻し、さらに発展させていくために努力してまいります。今後とも、変わらぬ御支援、御声援のほど、宜しく御願い致します。

京都大学陸上競技部監督 西村 優汰

2. 東大戦結果

第 89 回東京大学・京都大学対校陸上競技大会

総合優勝 東京大学 (通算・東大 32 勝京大 57 勝)

総合得点

京都大学 184 点 — 東京大学 188 点

100m (+0.8)	西村 智宏 10.56 NGR	泉 悠太 10.74	安藤 湊一 10.82	澤 薫 10.93	松本 大樹 10.94	備藤 翼 11.09	8	13
200m (-0.4)	西村 智宏 21.64	稲葉 啓人 21.75	松本 大樹 21.97	安藤 湊一 22.06	庄司 洸 22.15	岡本 和也 22.46	6	15
400m	紀平 直人 48.84	岡部 龍樹 49.32	河野 太郎 49.64	小原 幹太 49.98	森本 淳基 50.03	箕島 頌 50.82	14	7
800m	軽部 智 1.57.67	坂口 諒 1.57.72	加藤 騎貴 1.57.78	足立 涼 1.58.26	岡野 颯斗 1.58.89	土屋 雅智彦 1.59.62	6	15
1500m	岡野 颯斗 3.53.41 NGR	近藤 秀一 3.54.46	足立 涼 3.59.40	柴田 裕平 4.00.93	西川 拓 4.01.13	妹背 雄太 4.28.57	13	8
5000m	近藤 秀一 14.34.87	尾崎 拓 14.35.26	柴田 裕平 14.49.82	久米 祐輔 15.07.50	福島 洋佑 15.18.38	阿部 飛雄馬 15.18.67	12	9
5000mW	山西 利和 20.55.40	渡邊 成陽 21.27.76	堀江 駿 21.43.33	棟重 賢治 21.43.78	秋本 啓太 22.14.08	高野 圭太 22.28.01	9	12
110mH (+0.5)	田中 伸幸 15.34	福島 理 15.44	黒瀬 慶 15.71	加来 宗一郎 15.82	寶田 雅治 16.21	中尾 幸志郎 16.32	15	6
400mH	新村 航輝 53.00	加来 宗一郎 55.09	平田 奏行 57.11	松井 そら 57.49	中尾 幸志郎 57.63	松田 光陽 59.03	13	8
4×100mR	東京大 [泉-西村-松本-稲葉] 40.46 NGR			京都大 [澤-安藤-備藤-庄司] 41.36			2	6
4×400mR	京都大 [岡部-新村-小谷-紀平] 3.18.51			東京大 [藤田-河野-稲葉-森本] 3.20.57			6	2
トラック合計							104	101

走高跳	福永 大輔 2m00	木下 秀明 1m90	竹田 風馬 1m85	平島 敬也 1m80	五十嵐 隆皓 1m80	赤塚 智弥 1m75	9	12
棒高跳	三宅 功朔 4m80	澤 薫 4m30	松下 周平 4m30	珍坂 涼太 4m20	五十嵐 隆皓 3m30	戸部 潤一郎 NM	10	10
走幅跳	西村 智宏 7m02(+0.8)	深澤 竜太 6m99(+1.1)	松下 隼人 6m88(+0.5)	草野 恒平 6m88(+0.9)	本居 和弘 6m79(-0.3)	小野 貴裕 6m71(+1.2)	7	14
三段跳	木下 秀明 15m09(+1.3)	吉田 侑弥 14m49(+0.6)	三神 惇志 14m12(+0.0)	平木 基人 13.84(+0.0)	松下 隼人 13m76(-0.2)	伊東 悠希 13m55(+0.1)	7	14
砲丸投	土井 雅人 10m98	大橋 悟 10m37	鍵本 直人 9m84	金子 漢人 9m72	加藤 輝仁 9m69	浅野 智司 9m59	9	12
円盤投	大橋 悟 36m89	土井 雅人 31m94	山下 圭二 31m71	金子 漢人 31m69	鍵本 直人 31m04	山之内 良太 27m12	13	8
やり投	奥村 俊樹 57m21	若園 直樹 53m29	浅野 智司 49m08	松井 そら 48m44	八木澤 光太 47m69	田中 恭平 44m12	12	9
ハンマー投	若園 直樹 44m08	鍵本 直人 43m96	浅野 智司 39m85	佐藤 啓太 26m30	加藤 輝仁 24m49	土井 雅人 15m81	13	8
フィールド合計							80	87
総合得点							184	188

第 15 回東京大学・京都大学対校女子陸上競技大会

総合優勝 東京大学 (通算・東大 5 勝京大 10 勝)

総合得点

京都大学 29 点 — 東京大学 36 点

	1位	2位	3位	4位	京大の得点	東大の得点
100m (+0.7)	内山 咲良 12.81 NGR	白形 優依 13.23	小野 萌子 13.38	完山 聖奈 13.44	3	7
400m	坪浦 諒子 59.08	小野 萌子 1.00.35	白形 優衣 1.01.11	後藤 加奈 1.02.21	4	6
800m	高石 涼香 2.18.70	岸本 絵理 2.19.94	河原 未来 2.29.98	坂上 小百合 2.30.45	4	6
3000m	岡本 萌巴美 10.29.52	藤原 ゆか 10.35.87	増田 菫也子 10.41.42	高石 涼香 10.52.98	6	4
4×100mR	東京大 [河原-内山-白形-坪浦] 50.81		京都大 [金澤-完山-小野-山中] 52.02		2	4
			トラック合計		19	27
走幅跳	内山 咲良 5m43(+0.3) NGR	白形 優依 5m33(+0.0)	金澤 和寿美 5m08(-1.4)	完山 聖奈 4m81(+0.2)	3	7
砲丸投	横山 優花 10m17	福井 優輝 8m21	内山 咲良 7m29		7	2
			フィールド合計		10	9
			総合得点		29	36

3. 東大戦詳細

<短距離>

100m (+0.8)

3位 安藤 滉一 (2) 10.82

4位 澤 薫 (3) 10.93

6位 備藤 翼 (4) 11.09

2種目目の男子100mには京大からは備藤(4)、澤(3)、安藤(2)が出場。資格記録の上では東大の西村がトップで京大の3名は6,4,2位であったが6人中5人が10秒台とハイレベルな争いが予想され資格記録を超える結果も期待された。しかし序盤から東大の2名に先行されて結果は安藤が3位、澤が4位、備藤が6位となりランキングを覆される結果であった。さらに一位の東大西村は東大新、大会新の10秒56を出すという京大にとってはやや厳しいレースとなった。(亀田)



100m、200m、4継に出場した安藤(2)。今回は東大勢に先行を許してしまったが、来年はリベンジを果たして1位を勝ち取ってほしい。

200m (-0.4)

4位 安藤 滉一 (2) 22.06

5位 庄司 溪 (3) 22.15

6位 岡本 和也 (2) 22.46

男子200mには庄司(3)、安藤(2)、岡本(2)が出場した。この種目は東大に力のある選手がそろっており、いかに競り勝つか注目された。レースの序盤から東大の3人が前へ出るが、京大はやや遅れてしまう。ラストで庄司(3)と安藤(2)が東大の3番手との差を詰めたものの、二人とも惜しくも競り負けてしまい、結果は4、5、6位。悔しい結果となった。3選手とも来年があるので、これから飛躍に期待したい。(茂森)

400m

1位 紀平 直人 (4) 48.84

2位 岡部 龍樹 (4) 49.34

4位 小原 幹太 (1) 49.98

紀平(4)はスタートから他の選手を圧倒し、後半はリードを守りきり堂々の1位。ランキングトップの力を見せつけた。岡部(4)は前半やや抑え気味で300m地点では4位だったが、ラスト100mで東大の1、2番手を抜き去り2位。小原(1)は前半東大の選手にリードされるが、持ち前の粘り強さを発揮して東大の2番手に食らいつき4位。1位、2位、4位という最高目標を達成した。(茂森)

4×100mR 2位 41.36

澤 薫 (3)

安藤 滉一 (2)

備藤 翼 (4)

庄司 溪 (3)

東大は5回生を使ってきており、簡単には勝てない相手であり、厳しい戦いが予想された。

まず1走の澤は東大の1走とほぼ変わらないべ

ースで2走の安藤にバトンを渡したが、やはり今大会かなり調子のいい東大の西村により大きく差をつけられてしまった。その後も差を縮められず、結局2位という結果に終わってしまった。やはり、院生の存在がとても大きいことに気づかされたように思う。そのためにも今後、学部生がしっかりする必要があるだろう。(神先)

4×400mR 1位 3.18.51

岡部 龍樹 (4)

新村 航輝 (4)

小谷 哲 (1)

紀平 直人 (4)

京大からは岡部(4)-新村(4)-小谷(1)-紀平(4)で出場。

400mなどの個人種目で上位に入った4回生3人と他種目に出場のないフレッシュな小谷という布陣で挑み、その実力を見せて前半から東大に対してリードを奪う。バトンが少し危なっかしい所があったり、3走の小谷で1度少し詰められるということもあったがアンカーの紀平がそのまましっかりとリードを守りきって3.18.51というタイムで東大に2秒差をつける1着でゴール。総合優勝には届かなかったものの七大戦のリベンジを果たし、京大としての意地をしっかりと見せた最終種目であった。(亀田)

女子 100m (+0.7)

3位 小野 萌子 (2) 13.38

4位 完山 聖奈 (2) 13.44

女子100mには小野(2)と完山(2)が出場した。対する東大からはベテランの白形(4)と若手の内山(1)が出場した。スタートの号砲と共に頭1つ飛び出したのは東大の2人。それを追うように完山が

スムーズな加速を見せた。終盤にかけては小野が粘りを見せ、完山を抜き去り、白形にも迫ったが僅かに届かなかった。東大にスコルクされたのは痛手だったものの、2人ともまだ2回生でありこれからの成長が期待される。(三谷)

女子 400m

2位 小野 萌子 (2) 1.00.35

4位 後藤 加奈 (1) 1.02.21

東大から一人58秒台を持つ坪浦が出場しており、小野と後藤は何とか東大の2番手の白形に競り勝つことを目指したレース。

序盤から前評判通り坪浦が一人抜け出し、それに小野、後藤は150m手前で大きく離されてしまう。

小野は終盤以降白形に迫られながらもスピードを維持したまま2着でゴールした。後藤は終盤以降伸びを欠いて4着でのゴールとなった。しかし二人ともまだ1、2回生なので、来年には急成長を見せて1位を狙ってほしい。(土田)



女子400mの終盤の小野(2)。来年は60秒を切って1位を獲ってほしい。

女子 4×100mR 2位 52.02

金澤 和寿美(4)

完山 聖奈 (2)

小野 萌子 (2)

山中 遥加 (4)

1走金澤は、女子主将として圧巻の走りをみせ、東大に対しリードを作り2走完山へ繋ぐ。しかしその後2走、3走区間でじわじわと詰め寄せられ、そのままかわされリードを広げられる。3種目出場となっていた完山、小野には流石に疲労が残っていたか。4走山中も粘りをみせるが、及ばず2位となった。(吉川)

<ハードル>

110mH (+0.5)

1位 田中 伸幸 (3) 15.34

2位 福島 理 (2) 15.44

3位 黒瀬 慶 (2) 15.71

東大の1番手であった杉森が補欠の寶田と交代し、京大としては一気に有利な状況での試合となった。

田中伸と福島はレース序盤から東大勢に一步リードを取ってからは他の東大勢の追隨を許すことなくそのまま1位、2位でゴールした。黒瀬はスタートで出遅れるものの、得意のハードリングで徐々に東大の1番手に追いつき、ラストのハードルを越えたところで逆転して3位を勝ち取った。

この110mHではスコנקを達成し、京大の悪い流れを一気に断ち切ることができた。(土田)



見事110mHでスコנקを達成した福島(2)と黒瀬(2)。黒瀬はPBを更新した。

400mH

1位 新村 航輝 (4) 53.00

3位 平田 泰行 (2) 57.11

4位 松井 そら (1) 57.49

男子400mHには新村(4)、平田(2)、松井(1)が出場した。新村は圧倒的な力を見せて優勝を決めた。選考を勝ち抜いた平田はその勢いのままに見事3位に食い込み、PBを更新した。松井も最後まで気持ちのこもった走りを見せ、4位になった。京大にいい流れを呼び込んだ1発目のレースとなった。(長谷川)

<中距離>

800m

4位 足立 涼 (4) 1:58.26

5位 岡野 颯斗 (4) 1:58.89

6位 土屋 維智彦(1) 1:59.62

男子800mには足立、岡野、土屋が出場した。東大の1番手が頭一つ抜け出していたが、東大の2番手には、足立、岡野、土屋ともに勝つ可能性が十分に考えられた。しかし、結果はスコנקされることとなった。東大の1番手がブロックをす

ることに徹し、京大の選手は最後まで上手く前に出ることができず、東大の策に敗れた。主将として挑んだ足立やパートチーフとして気合いが入る岡野にとっては、非常に悔しい結果となった。

(田中達)

1500m

- 1位 岡野 颯斗 (4) 3.53.41
- 3位 足立 涼 (4) 3.59.40
- 4位 柴田 裕平 (3) 4.00.93

1500mには足立、岡野、柴田が出場した。レースは序盤からハイペースで進み、岡野と東大の近藤と妹背の3人で先頭を争い、少し遅れて足立、その後ろに柴田と東大の西川というレースになった。妹背はペースメーカーだったらしく、800mを過ぎて姿を消す。ラスト400mのところでは岡野が前に出て、そのまま近藤から逃げ切り優勝。足立は3着に入り、柴田は最後に西川を抜き、僅差で4着に入った。1500mでは5点の勝ち越しとなった。

(小柴)



1500mで最後のスパートで逃げ切って1位を獲得した岡野(4)。PCとして意地の走りを見せてくれた。

女子 800m

- 2位 岸本 絵理 (3) 2.19.94
- 4位 坂上 小百合(4) 2.30.45

女子800mには岸本、坂上が出場した。今年度大きな成長をみせた岸本は、東大の格上選手を相手に先頭に立ちレースをリードした。ラストで1人抜かれるも、3000mも兼ねていた東大の選手を疲労させるレースができた。また、故障で苦しんだ坂上は東大の2番手の選手をマーク。ラスト100mの勝負になるも、惜しくも競り負け4位。学部生の最後の対校戦としては悔しい結果に終わった。

(田中達)

<長距離>

5000m

- 2位 尾崎 拓 (3) 14.35.26
- 3位 柴田 裕平 (3) 14.49.84
- 4位 久米 祐輔 (4) 15.07.50

レースは先日東大新をマークした近藤がひっぱる展開。2000m付近で久米と近藤以外の東大2人が離され、集団が二つに分かれた形となる。後方の集団では久米が意地をみせ、ラストもスパートを決め4位を死守。先頭はラスト1周直前まで動きがなかったが、近藤の加速に柴田がついていけず少し遅れ、そのまま3位。尾崎はくらいつき、一時は近藤を抜いたものの、ラストスパートのスプリントの差で僅かに及ばず2位となった。(吉川)

女子 3000m

- 1位 岡本 萌巴美(3) 10.43.01
- 3位 増田 茄也子(2) 10.26.38

女子3000mには岡本(3)、増田(2)が出場した。序盤から増田が積極的に引っ張る展開となった。

2400m 過ぎから岡本、東大の選手 1 人が前に出て、集団が分かると、増田はそれについていけず、そのまま 3 位でゴール。岡本は一度東大の選手に前に出られるも、さらにもう一度抜き返し、渾身のスパートを見せて 1 位でフィニッシュした。来年こそはスコックを期待したい。(長谷川)



PB を大きく更新する快走で下馬評を覆し 1 位を勝ち取った岡本(3)。ラストスパートが光った試合だった。

5000mW

- 1 位 山西 利和 (3) 20.55.40
- 5 位 秋本 啓太 (2) 22.14.08
- 6 位 高野 圭太 (2) 22.28.01

5000mW には山西、秋本、高野が出場した。山西は力の差を見せつけ、実力通りの優勝。秋本と高野だが、3 位集団にいたが、3000m 過ぎでペースが上がり、そこで高野は離れてしまう。秋本だが、3400m 過ぎでの東大の選手が前に出て、ペースが上がった時に対応できずに、少々食らいついたが離されてしまい、その後順位は変わらずゴールし 5 着、6 着となった。5000mW では 3 点負け越しとなり、大量得点が期待されていただけに痛い結果となった。(小柴)



終始余裕のペースで 1 位を獲得した山西(3)。今年は安定した歩きを見せており、来年度も更なる活躍が期待される。

< 跳躍種目 >

走高跳

- 3 位 竹田 風馬 (3) 1m85
- 4 位 五十嵐 隆皓(2) 1m80
- 4 位 平島 敬也 (1) 1m80

男子走高跳には竹田、五十嵐、平島の 3 名が出場した。五十嵐、平島は 1m75 から跳躍を開始した。ともに 1m75、1m80 を 1 回でクリアし、5 位以上を確定させたが、1m85 は 3 回試技に失敗し、クリアすることはできなかった。また、1m85 からは竹田が跳躍を開始した。1 回目、2 回目と試技に失敗したものの、3 回目の試技でクリアした。1m90 は惜しくもクリアすることができなかった。実力者が東大にいる中で、苦しい勝負となったが 3 人ともに粘り強い戦いを見せてくれた。(柴田星)

棒高跳

- 2 位 澤 薫 (3) 4m30
- 4 位 珍坂 涼太 (3) 4m20
- 5 位 五十嵐 隆皓(2) 3m30

男子棒高跳には澤、珍坂、五十嵐の 3 名が出場した。前日に急遽出場が決定した五十嵐は 3m00

を三本目でクリアし 5 位を確定させ、その後 3m30 まで記録を伸ばした。珍坂は自己ベストタイである 4m20 をクリアしたが惜しくも 4 位となった。澤は多種目出場の疲労がある中でもきっちりと 2 位を確保した。(南井)

走幅跳

- 3 位 松下 隼人 (4) 6m89
5 位 本居 和弘 (1) 6m79
6 位 小野 貴裕 (1) 6m71

男子走幅跳には松下、本居、小野が出場した。松下は 7m 台の跳躍を期待されたが、あまり調子が上がらず 6m88 で 3 位であった。本居と小野はそれぞれ 5 位、6 位となり、東大に大幅に勝ち越されてしまったが共に一回生であるのでこの経験をもとに来年以降の活躍を期待したい。(南井)

三段跳

- 3 位 三神 惇志 (1) 14m12
5 位 松下 隼人 (4) 13m76
6 位 伊東 悠希 (2) 13m55

男子三段跳には松下、伊東、三神の 3 名が出場した。松下は走幅跳に続いて 2 種目の出場であり、調子が振るわずに残念ながら、記録を伸ばすことができなかった。伊東は怪我を押しての出場であったため、本来の実力を発揮できないままに、後半の試技をパスすることとなった。一方、三神は 2 回目の試技で大学ベストを大きく更新する 14m12 をマークし、1 回生ながら見事 3 位に入り、今後の活躍が期待される。(柴田星)



三段跳で CB を大きく更新した三神(1)。満足のいく跳躍で東大のスコンクを阻止した。

女子走幅跳

- 3 位 金澤 和寿美(4) 5m24
4 位 完山 聖奈 (2) 4m89

ランキングでも東大の 2 人が上位を占めており、厳しい戦いが予想されていた。試合は前評判通り東大の両選手が大会記録を出す中で、京大の金澤、完山はなかなか 5m を越えることができず、苦しい展開。金澤が最後に 5m 越えのジャンプを見せるも、東大勢には届かず 3.4 位に終わった。(友田)



女子走幅跳に出場した金澤(4)。5m24 をマークするも東大の選手の方が地力が上であった。

< 投擲種目 >

砲丸投

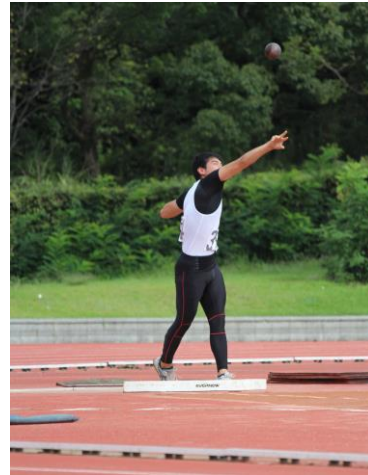
- 2位 大橋 悟 (1) 10m37
- 4位 金子 溪人 (3) 9m72
- 6位 浅野 智司 (3) 9m59

男子砲丸投には浅野、金子、大橋が出場した。事前ランキングでは4~6位であったが、結果は2位、4位、6位とランキングを覆した。女子も含め砲丸投では全員がベスト記録をマークしたが、満足してない者も多いのでさらなる飛躍を期待したい。(中山)

円盤投

- 1位 大橋 悟 (1) 36m89
- 3位 山下 圭二 (4) 31m71
- 4位 金子 溪人 (3) 31m69

円盤投には山下(4)、金子(3)、大橋(1)の3人が出場した。山下は1投目から29m05をマークすると、試技ごとに順調に記録を伸ばしていき、ついに4投目には31m71を叩き出した。山下は学部生としての最後の対校戦を3位入賞で飾ることができた。金子は序盤にファールが続いたが、5投目に31m69をマークし4位に食い込んだ。大橋はファールがありながらも35m代を安定して残し、最後の投てきでは自己ベストを更新する36m89のビッグスローを見せた。大橋は1回生ながら見事優勝し、チームを大いに盛り上げた。(三谷)



一回生ながら砲丸投と円盤投で2位と1位に入り大きく得点を稼いだ大橋(1)。投擲陣のエースとして今後に期待がかかる。

ハンマー投

- 1位 若園 直樹 (5) 44m08
- 4位 佐藤 啓太 (4) 26m30
- 3位 浅野 智司 (3) 39m85

今大会の第一種目となった男子ハンマー投には若園、佐藤、浅野が出場した。東大のエースである鍵本が2投目で一時トップに躍り出たが、若園の非常に安定感のある投擲で見事0.12m差を制し、前評判通り優勝を果たした。以前からハンマー投の練習を積んでいた佐藤は本番で自己記録を更新し、東大の2番手を引き離し目標の4位を掴みとった。ハンマー投、砲丸投、やり投の3種目に出場した浅野は東大の鍵本には及ばず3位に終わったものの、次期主将としてこれからの躍進に期待したい。(立花)

やり投

- 2位 若園 直樹 (5) 53m29
- 3位 浅野 智司 (3) 49m08
- 4位 松井 そら (1) 48m44

やり投には若園、浅野、松井が出場した。結果は2位、3位、4位と1回生の松井がランキングを大きく覆し奮闘した。若園は直前に肘を痛めていたが安定して50m台の投擲を見せ、確実に2位をとった。浅野も安定して40m後半の投擲をしたが、3種目という疲労が溜まった状態だったからか1本がはまらず3位に終わった。松井は6投を通して全てうまく投げ、東大を2人倒した。今後もさらに記録を伸ばしてほしい。(中山)

女子砲丸投

- 1位 横山 優花 (2) 10m17
- 2位 福井 優輝 (1) 8m21

女子砲丸投には横山と福井が出場した。対する東大は7m前半の記録を持つ内山ただ一人で、京大に優位な状況であった。圧倒的な実力を持つ横山は圧巻の投擲で危なげなく優勝を掴んだ。5投目には10m17をマークし、自身の持つ京大記録を更新するとともに10mの大台に乗った。また福井も普段の練習の成果を遺憾なく発揮し、自己記録を更新して2位を勝ち取った。女子の部では苦戦を強いられていたが、砲丸投で着実にワン・ツーを取ることによってチームを大いに盛り上げた。(立花)



今大会で遂に10m台の記録を出した横山(2)。来季は更なる蒼穹記録更新に期待がかかる。

4. 東大戦 OP 結果

▼5000m		
高石 雅貴	15.42.40	
▼5000mW		
大本 康平	22.22.61	
田中 雄也	22.47.86	
亀田 孝太郎	22.55.80	CB
海老原 脩	23.42.67	

5.新主将挨拶

この度、新たに主将を務めさせていただくことになりました浅野智司です。今年度は関西インカレ、伊勢予選、七大戦、東大戦と、チームとして目標を達成できなかった大変悔しいシーズンとなってしまいました。

近年の京都大学陸上競技部を支えてくださっていた、チームの柱であった選手がこの数年で抜けられ、現在チームは大きな岐路に立たされています。この一年が今後を占う大きな意味を持つことを自覚し、主将という責務を全うさせていただく所存です。

今年一年で感じ続けた悔しさを決して無駄にせぬように、今後に繋げていかなければなりません。来年度のチーム目標は「関西インカレ男女で84点超え」を果たし、近年での最高得点をあげることです。決して簡単に手の届く目標ではありませんが、伊勢予選突破、七大戦や東大戦の男女総合優勝、さらにはその先の京都大学陸上競技部の発展へと繋げて参ります。京都大学陸上競技部が強いチームであり続けられるように、部員一同精進を重ねていく所存です。どうか蒼穹会の皆様におかれましては、今後とも変わらぬ暖かいご支援、ご声援のほど、よろしく願いいたします。

京都大学陸上競技部新主将 浅野 智司

6.新幹部紹介

主将、投擲パートチーフ	浅野 智司
副将、女子主将	岸本 絵理
短短パートチーフ	珍坂 涼太
短長パートチーフ	加藤 陸至
ハードルパートチーフ	田中 伸幸
中距離パートチーフ	友田 浩平
長距離パートチーフ	柴田 裕平
競歩パートチーフ	山西 利和
跳躍パートチーフ	竹田 風馬
混成パートチーフ	澤 薫
マネージャーパートチーフ	小松 葉瑠
主務（学連担当）	岡本 萌巴美
主務（渉外担当）	眞杉 陸
主務（体育会担当）	清水 良輔



蒼穹ニュース 平成28年度 第6号
平成28年10月8日発行

発行所：京都大学体育会陸上競技部
編集者：土田侑秀・小柴鷹介・黒瀬慶（副務）
特別協力：阿邊啓明・宮垣寛之・山内美佳・秋本啓太・三田村侑紀（学連員）
谷口博紀・富永貴弘（記録係）・清水良輔（HP 係）
写真担当：五十嵐隆皓・川岸亮平・林玲美

陸上競技部 HP <http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/>
陸上競技部記録 HP <http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/kiroku/index.htm>
関西学連 HP <http://gold.jaic.org/jaic/icaak/index.htm>
メールアドレス roppe.0406@gmail.com（黒瀬）